

兵庫県立大学学長の業績評価書

令和2年9月29日

公立大学法人兵庫県立大学学長選考会議

公立大学法人兵庫県立大学学長業績評価規程（以下「規程」という。）第2条第2号に基づき、太田勲学長について、4年任期の最終年度における期末業績評価を行いましたので、その結果を公表します。

1 評価方法

規程第3条に基づき、所信表明書の達成状況及び兵庫県公立大学法人評価委員会が作成した評価書における評価、並びに学長から提出のあった自己評価書における自己評価を業績評価の対象とし、規程第5条に基づき学長に対してヒアリングを行った。

2 評価結果

【総合評価】

平成25年4月に公立大学法人に移行し、本学がまさに新しい組織体制のもと成長の過渡期にある中で、法人化後の2代目学長として、教育・研究・社会貢献・管理運営の各分野において、全体として順調かつ着実に業務を遂行していると評価できる。

（1）教育

- “グローバル化”と“サイバー化”という時代の趨勢に合わせ、学部改編により「国際商経学部」と「社会情報科学部」を計画どおり発足させ、国際商経学部には、国際学生寮を有する先進的なグローバルビジネスコース（GBC）を開設したことは大いに評価できる。
- 学問領域の発展と融合、学際化に柔軟に対応するため、大学院全14研究科のうち8つの研究科を、「社会科学研究科」、「情報科学研究科」、「理学研究科」の3つへ計画どおり統合再編を進めたことは評価できる。
- 教養教育の重要性を踏まえた教養教育改革については、新型コロナウイルス感染症の影響もあって、検討体制の整備にとどまっており、取組の推進が望まれる。

（2）研究

- 放射光施設ニュースバルやスーパーコンピュータ「京」などの先端研究基盤と、兵庫の特色ある地域資源を活用して、企業や研究機関などとの連携を推進し、幅広い分野で研究成果を上げたことに加え、外部資金の獲得や共同研究・受託研究の進展の面でも成果を上げたことは大いに評価できる。

- 学長が主導する特色化戦略推進費を活用して、「次世代研究プロジェクト推進事業」など、基礎研究・異分野融合研究から先端研究まで幅広く支援する制度を新設するなど、学内のさらなる研究推進を図ったことは評価できる。

(3) 社会貢献

- 企業・団体、自治体、高等学校などと、新たな連携協定を幅広く締結し、学生のインターンシップやフィールドワーク、ビッグデータ解析、データサイエンス教育などの面において、連携の深化が図られていることは評価できる。
- 県内の瀬戸内海沿岸部に集積する金属素材・金属加工に関する地元企業を支援するため、「金属新素材研究センター」を設置したことや、地元中小企業のAI社会に対応できる技術者の養成などを支援するため、「人工知能研究教育センター」を設置したことは評価できる。

(4) 管理運営

- 学長自らが、県下全域に広がる9つのキャンパスへ赴き、当該キャンパスの教職員と意見交換して課題の共有を図るなど、キャンパスとの関係を大切にし、相互理解に努めていることは評価できる。
- GBCの外国人留学生のスタートアップを経済的に支援するため、「GBC留学生支援基金」を新設し、学長自らが多数の企業を訪問して支援を依頼した結果、地元企業を中心に支援の輪が広がり、多額の寄附が寄せられたこと等は大いに評価できる。
- 広報担当の学長特別補佐を設置するなど、広報体制の充実に取り組んでいるが、時代に即した情報発信ツールを活用するなどして、国内外に向けた広報のあり方を見直し、本学のさらなるプレゼンス向上へ繋がる取組が望まれる。